

原子力関連産業従事者等に関する
疫学文献調査検討委員会
報告書

平成19年3月

財団法人 原子力安全研究協会

まえがき

低線量放射線の人体への影響評価に関して、動物実験、細胞レベルの研究だけでなく、原爆被爆生存者、原子力作業員、医療による被ばくを受けた者など様々な放射線被ばく集団での疫学調査に期待が寄せられている。特に原子力作業員の健康リスクに関しては社会的な関心も高く、米国、カナダ、英国などを中心に低レベル放射線の被ばくの影響に関するいくつかの疫学調査が行われてきた。

また、国内外で多数の機関が放射線被ばくと悪性腫瘍のリスクとの関連に関して疫学調査の文献的検討を行い、国レベルでの報告書をまとめている場合も少なくないが、我が国ではこのような放射線被ばくと悪性腫瘍のリスクとの関連、がんの部位別の詳細な疫学調査の文献的検討はあまり行われていなかった。

このため、財団法人原子力安全研究協会では、低レベル放射線の被ばくと3部位の悪性腫瘍、前立腺がん、悪性黒色腫、多発性骨髄腫のリスクとの関連について疫学調査の文献的検討を行うことを目的として、「原子力関連産業従事者等に関する疫学文献調査検討委員会」を設置し、学識経験者による検討を行った。本報告書は、この検討の成果をとりまとめたものである。

最後に、本報告書を取りまとめるにあたり、ご協力頂いた関係者各位に深く感謝する。

平成19年3月

財団法人 原子力安全研究協会
原子力関連産業従事者等に関する
疫学文献調査検討委員会
委員長 重松逸造